

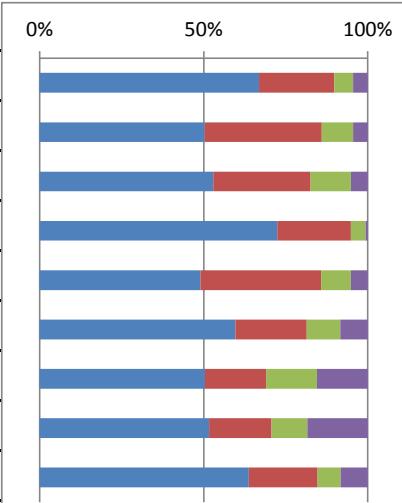


7月は、学校評価にご協力いただき、ありがとうございます。集計結果と主な考察を掲載しましたので、ご一読いただきますようお願いいたします。学校評価の結果を本校教育に活かしていきたいと考えております。今後とも、ご支援とご協力をよろしくお願ひいたします。



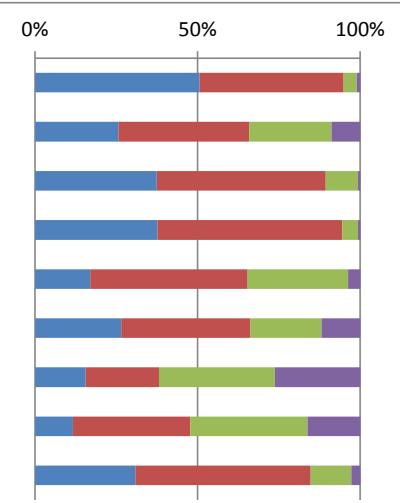
## 児童による回答

1	学校は楽しいですか。
2	自分からすすんで学習しようとしていますか。
3	学習で分からなことがありますれば、先生に相談できますか。
4	友だちや周りの人を大切にしていますか。
5	話をしっかりと聞き、考えて、自分の意見を言うことができますか。
6	家ですんで宿題や学習をしていますか。
7	学校でも家でも、よく本を読んでいますか。
8	いじめ対策委員のメンバーなど担任の先生以外に相談できる人がいることを知っていますか。
9	友だち関係などで困ったことがありますれば、相談できる人(先生や友だち等)がいますか。



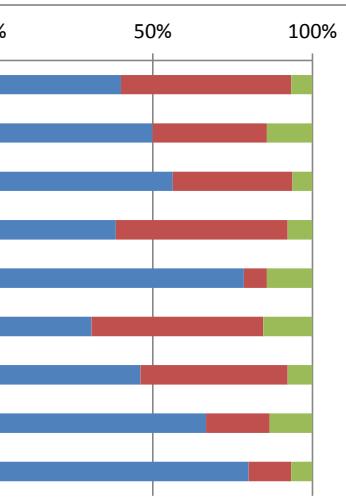
## 保護者による回答

1	お子さんは、楽しく学校生活を送っていますか。
2	お子さんは、自らすすんで学習しようとしていますか。
3	子どもの学習について、担任に気軽に相談できますか。
4	お子さんは、友だちや周りの人を大切にしていますか。
5	お子さんは、話をしっかりと聞き、自分の意見を発表することができますか。
6	お子さんは、家で進んで宿題や学習をしていますか。
7	お子さんは、家でよく本を読んでいますか。
8	学校は、いじめ対策委員会を設置して、組織的に対応していることを知っていますか。
9	子どもの友だち関係などについて、教職員に気軽に相談ができますか。



## 教職員による回答

1	子どもが楽しく取り組み、達成感をもてる活動を意図的に行っていますか。
2	一人一人が主体的に力をつけられる授業を工夫していますか。
3	子どもや保護者の思いを受け止め、相談にのっていますか。
4	一人一人を徹底的に大切にし、児童同士が互いに認め合うことができる学級づくりを行っていますか。
5	子どもたちに「話す・聞く」という学習の基本ルールを身につけられるように指導していますか。
6	家庭学習への働きかけや宿題の出し方の工夫を行っていますか。
7	本の楽しさに気づかせ、読書好きな子になるように指導をしていますか。
8	学校いじめ防止基本方針の内容を理解し、組織的な対応に努めていますか。
9	児童や保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有していますか。

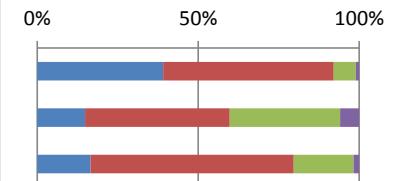


## ～アンケート結果より～

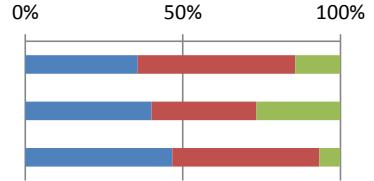
来年度から新学習指導要領に完全移行します。そこでは、主体的・対話的で深い学びを実現していくことが学校には求められています。これから変化の激しい社会、人工知能が日常の暮らしの中に普及していくと予想される未来の社会の中で、身の回りに生じる問題に自ら立ち向かい、解決に向けて様々な立場の人が力を合わせながら、解決方法を探り出すことができる人材が求められています。

項目5「話を聞き、考えて、自分の意見を言うことができるか」という設問では、「そう思う」「大体そう思う」と回答した児童は、昨年度の同時期の約72%から今年は約77%となり、5%の伸びが見られました。しかし、項目2「自分からすすんで学習しようとしているか」という設問について肯定的に回答した児童は昨年度の約84%から約81%へと減少していました。本校では、学校生活また社会生活においてこの2項目は大変重要な項目だと考えています。あらゆる学習活動において話し合い活動を意図的に多くもち、児童自身で答えにたどり着けるような授業となるように授業改善を進めています。児童自身で考え、行動を決めていくような自己決定の機会をもつことを意識して、次代を生きる力を付けていきたいと考えています。ご家庭においても児童が自己決定をする機

17	学校は、学校だよりやホームページなどいろいろな取組を保護者の方に伝えていますか。
18	学校行事やPTA行事、地域行事にすすんで参加していますか。
19	学校は、家庭や地域と連携して、「地域ぐるみ」の教育を推進していますか。



17	おたよりやホームページなどで学年や学校の様子を積極的に伝えていますか。
18	PTA行事や地域行事にすすんで参加していますか。
19	学校は家庭や地域と連携して、「地域ぐるみ」の教育を推進していますか。



項目8「いじめ対策委員会を知っているか」という設問では、「そう思う」「大体そう思う」との回答が児童・保護者共に10%ほどの上昇が見られました。また、項目9「困ったときに相談できる人がいるか」という設問においても肯定的に回答する児童が増えてきています。一人一人が良さを学校生活の中でしっかりと発揮していくためには、集団の中での安心感が不可欠です。これまでと同様、担任だけでなく教職員全体で子どもたちに寄り添い、子どもたちの小さな変化やサインを見逃さないようにし、一人一人を徹底的に大切にする教育を推進していきたいと考えています。子どもたち同士が自分の思いを伝え合うことのできる関係を構築するためにあたたかい学級・学年づくりをすすめていかなければならぬと考えています。その上で、子どもたちが担任だけでなく、どの教職員

項目16「安全に集団登校で通っているか」という設問では、児童の「そう思う」「大体そう思う」の肯定的な回答が大幅に増えました。各学級で声かけを継続してきたことで児童の意識が変わってきた成果が出てきました。一方、朝起きるのが苦手で集団登校の集合時刻に間に合わないことが続いているという児童もまだまだいるようです。集団登校のねらいとして次の3点があります。①毎日、待ち合わせの時刻を守ることを当たり前にすることで、約束を守る習慣を身につけることができる。②異学年の交友関係を築くことができる。また、近所のお兄さん、お姉さんと仲良くなり、下の学年のお世話をすることで、役に立つという実感をもつた自尊感情を育むことができる。③登校中の安全確認を高学年が中心にすることで低学年の子を守ることや、不審者の声かけによる事件や事故を減らすことができる。

会をもち、会話の中でも集中して聞き、相手意識をもって誰にでも伝わる話し方ができるかを見て、お声かけください。

にも困っていることや悩んでいることを相談できるようにすることはもちろんのこと、「いじめは絶対にダメ」という学校風土を目指すためにも、これまで以上のご支援ご協力ををお願いします。

「いじめは絶対にダメ」の風土へ豆「いじめ」のノハーナツメ「いじめ」の相手へ元気をもたらすことをおこないます。ご家庭でも話題にしてみたり、声をかけたりしていただきますようお願いします。